

第3次実施計画事業(案)に対する市民意見

意見提出者数 11名、意見数 56件

No.	区分	意見の概要
1	計画全体	第3次実施計画の詳細が、第2次実施計画を踏まえた今後3年間の新たな取組を記載したものなのか、それとも、市が現在実施している事業も含めたすべての事業なのかがわかりにくい。 もし、前者なら、あまりに広い範囲で総花的な項目と件数となっているため、市としてどこに一番力を入れていくのかが見えにく。市の優先事業については、なんらかの表示を付けるなど工夫した方がよいのではないかと。後者だとしても、特に力を入れていく分野がわかりにくい。
2	計画全体	第2次実施計画の評価(成果)と反省(課題)に立った上での、第3次実施計画である事との関連性や繋がりがわかりづらい。
3	計画全体	個々の事業名と概要説明だけでは何をするのかよくわからない。 項目は、具体的に表記されているものもあるが、抽象的な表現のものも多く、具体的に、誰が何をどのような結果目標をめざしてやるのか不明のものも多い。 少なくとも、事業の実施主体や担当課などの情報は掲載してほしい。
4	計画全体	実施する事業の予算規模、巻き込む人やグループなどの主体、地域など不明なものが多い。 例えば全体予算の中で何%位の事業として計画しているのかなどを示してほしい。
5	計画全体	事業の実施主体以外の者がその事業結果や効果を評価する体制は整っているのか。事業実施主体自らが事業効果を評価すると、客観的に事業効果を検証することができず、税金の無駄使いになる可能性もあるので留意してほしい。
6	計画全体	例えば、シニア向け福祉を抑えてでも、少子化対策や育児子育て支援や投資に振り向けるなど、市として、成果評価・効果測定や全体の中の優先付けなどが必要ではないか。
7	計画全体	目玉となる事業はどれかわかりにくい。
8	計画全体	何の為に、どんな事業をするか。どんな効果を狙うのか。わかるように記載してほしい。
9	計画全体	概要には新規事業等が記載されているが、事業一覧に書かれていないので、新規事業がわかるような表記があったほうがわかりやすい。
10	計画全体	策定の視点に基づく主な新規拡充事業の項目が、事業の中のどこに活かされているのか、両者の関係性が見つけづらいので、書き方を工夫していただきたい。
11	計画全体	基本計画作成当初になかった新規事業を盛り込む場合には、その理由、背景などの説明があるとよい。 また、当初あっても取りやめたり、変更した事業についても、大まかな説明があるとよい。
12	計画全体	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組みについて、3年間の計画なので大会実施までの取り組みがメインなのは理解できるが、多文化共生社会の実現につながるような表現にしてほしい。

No.	区分	意見の概要
13	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	生物多様性の理解促進について、「生物多様性」とは、生きものだけでなく、「まちづくり」や「産業」、「教育」など包括的な分野で考えていくものではないか。 理解促進のためには、市の施策全体で考えていく取組が必要である。 また、他の多くの政令市ではすでに策定が進んでいる「生物多様性地域戦略」の策定を最終目標に入れてほしい。
14	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	生物多様性の理解促進について、生物多様性地域戦略の最も基本となる資料である「千葉市レッドリスト」は、2004年4月に作成して以来、13年以上が経過しているが1回も改訂が行われておらず、生物多様性地域戦略が未策定なのは、政令指定都市の中で千葉市を含めごく少数である。 このため、市民参加による調査も必要だが、専門家による生物調査も併せて実施し、調査結果を踏まえ、千葉市レッドリストを改定するとともに、早急に生物多様性地域戦略を策定し、具体的な施策を計画・実施すべきと考える。
15	1-1-2 やすらぎとにぎわいの ある海辺の創出	千葉みなと棧橋旅客ターミナル(ケーズハーバー)の入口および館内に、旅客船運航情報を表示する電光掲示板を設置してほしい。
16	1-1-2 やすらぎとにぎわいの ある海辺の創出	千葉みなと棧橋を発着する船社や旅客便を増やすため、乗組員や地上員が荷置きや休憩などに利用できる控室(ミニ事務所)を設置してほしい。 また、千葉港緑地のより一層の賑わいを創出するため、船社が新型船(中古船を含む)を購入・リースする際に、千葉港棧橋を母港としたり、千葉みなと棧橋の発着便に使用を限定する事などを条件に、費用の一部を補助する制度の創設について検討してほしい。
17	1-2-1 緑と花のあふれる都市 空間を創る	花見川サイクリングコースの充実について、通学や通勤にも活用されているので街灯の設置を検討してほしい。
18	1-2-1 緑と花のあふれる都市 空間を創る	亥鼻公園のサクラの再生について、亥鼻山が花見の名所になったのは、千葉開府800年記念碑(1929)の建立と共にソメイヨシノを植樹したのが始まりとされる。 現在の桜は衰弱が著しいため、千葉開府900年に向けて「サクラ再生プロジェクト」を立ち上げ、千葉氏に因んだ桜の品種(例えば、源氏の白旗に因んだ白花の「大島桜」、平氏の赤旗に因んだ赤芽の「山桜」、二つ合わせて「源平桜」と名付けるなどして)を植樹し、新たな桜の名所にしたり、現在のソメイヨシノを樹勢回復するため、市民参加による桜の手入れイベントを毎年秋(10~11月)に秋の桜まつりとして開催するなど推進してほしい。
19	1-3-1 低炭素社会の実現に 向けた取組の推進	省エネルギー住宅及び電気自動車等の導入推進について、千葉市では、地球環境保全に寄与することのできる再生可能エネルギー等の導入を推進していることから、太陽光発電設備と記載するのではなく、再生可能エネルギー等設備と記載すべき。
20	1-3-2 循環型社会の実現に 向けた取組みの推進	3R教育・学習の推進について、若年層や学校教育の中での啓発活動は評価できるが、市民向けの啓発を推進してほしい。多言語による情報発信、公民館主催事業等を活用した啓発等。
21	1-3-3 良好な生活環境の確 保	大気環境測定の推進について、製鉄所からの降下ばいじんによる被害は現在でも大変深刻だが、市の環境目標値は、昭和40年代に定められたきり見直しが行われていない。 千葉市と同様市内に製鉄所を抱える兵庫県加古川市では、環境目標値は本市の3分の1以下である。 また、事業者による削減への取り組みも広く情報公開されており、市民との対話にも力を入れている。 深刻な降下ばいじんの被害について、事業者と共同で被害状況を調査し、環境目標値の早急な見直しを行うとともに、削減対策の強化と情報公開を進めてほしい。

No.	区分	意見の概要
22	2-1-2 医療体制の充実	地域医療人材支援団体の設置促進について、地域包括ケアの推進のためには福祉と医療の連携体制が不可欠なので、医療従事者が責任を一人で抱えこまないような体制をつくることは必要。支援団体がどのような活動するのかイメージがわかるように書いてほしい。
23	2-2-1 子育て支援の充実	公立保育所の建替えについて、保育環境の向上は大切なので推進してほしいが、建て替えを契機に民間にしないよう、公立の保育所として継続していくべきと考える。
24	2-2-2 こどもの健全育成の推進	子どもルームの拡充について、一人当たりの面積が確保されていないようなルームもあるので環境の改善を図れるように進めてほしい。また指導員の欠員がないようにすること。
25	2-2-2 こどもの健全育成の推進	児童相談所の充実強化について、一時保護をはじめ、児童相談所の役割はますます大きくなるので人員体制の拡充も含めた強化を行ってほしい。
26	2-4-2 地域生活支援の充実 (高齢者)	生活支援体制整備の推進について、生活支援コーディネーターの役割を明確にして、あんしんケアセンターとの連携体制をつくる必要がある。
27	2-5-2 地域生活支援の充実 (障害のある人)	障害者グループホームの整備について、保護者の高齢化が進むため、地域での生活ができるようグループホームへの運営費の拡充を図ることが必要。
28	3-1-1 学校教育の振興	いじめによる自殺をなくしてほしい。
29	3-2-2 スポーツ・レクリエーション活動の推進	千葉公園の再整備について、大賀ハスの展示施設として現在の蓮華亭は手狭であり展示内容も不十分であるため、公園の再整備にあたり、蓮華亭の拡大再整備ないし新たな公園施設の整備に当たり、大賀ハスの展示スペースを確保していただきたい。
30	3-2-2 スポーツ・レクリエーション活動の推進	競輪場の建て直しに関して、どこにも載っていないようだが、この実施計画に盛り込まなくてよいのか。建物は民間が作ると聞いたが、ちょっとでも市が直接関与する部分があれば、計画に乗せていくべきだと思う。
31	3-4-1 国際化の推進	姉妹・友好都市との交流推進について、単なる交流にとどまらず、もう少し踏み込んだお互いの都市への若者相互投資(交換留学やベンチャー交流)など、市内国際交流系のNPOや団体などを巻き込む施策を実施してほしい。
32	3-4-1 国際化の推進	国際交流ボランティアリーダーの育成について、在住留学生などの若者を中心に外国人が一般市民と交流できるような施策が実施してほしい。
33	3-4-1 国際化の推進	国際交流プラザの機能充実について、ここが起点となって市内の多文化共生が進んでいると思う。多文化共生系のセミナーや、在住外国人の日本語スピーチコンテスト、交流会も充実しており、成果を出している。千葉大けやき倶楽部や教員など大学連携もあり、今後ますますの充実・発展を期待している。 他方、日本語学習支援では地域レベルで高齢化、ボランティア先生の人不足などが課題であり、(稲浜日本語ボラ教室)プラザでの日本語支援要員の養成講座も充実してほしい。

No.	区分	意見の概要
34	3-5-1 市民参加・協働の推進	市民参加・協働を推進することは、大いに結構な施策です。財政に限られる中、自立志向の強い市民が自助的活動で、共助や公助のカバーをして行く事は、これからの地方自治の一つの理想的な流れだと思う。
35	3-5-1 市民参加・協働の推進	市民シンクタンクの充実について、フィールドでの現場調査や活動を含め、このような活動に賛同するグループは多い。ネットでの繋がりから、定期的なセミナーなどを通してお互いの考えをシェアし、議論を進め、連携プロジェクトなどが実施できると思う。大いに賛成、賛同する。
36	3-5-1 市民参加・協働の推進	市民団体の活動への支援について ①市が求める協働事業への参加は進んできたが、市民の自主的な公益活動を支援する視点が不足しているように思われる。 ②市民活動への支援として、参加者募集を促す活動の紹介など広報面での応援も検討してほしい。 ③区内の活動に対し3年を限度に助成している例があるが、4年目以降の支援がない。公益的な市民活動は、収益が出ない場合が多く、市として必要と思われる事業には、継続的に支援をしたり市の事業として予算を付けるなど、検討してほしい。 ④活動費の支援について、区内だけでなく、市域を活動エリアとする団体への支援についても検討していただきたい。 ⑤たとえば、柏市民公益活動促進基金(柏・愛らぶ基金)のような制度の創設を検討してほしい。
37	3-5-2 男女共同参画の推進	男女共同参画という言葉が古くて重たい感じがするため、多様性を生かした社会づくりに変更し、多様性(ダイバーシティ)推進と女性の活躍できる社会づくりと続きダイバーシティの中で、LGBT支援や在住外国人の活躍推進と多文化共生によるまちづくりと記載方法を改めるべきと考える。
38	3-5-2 男女共同参画の推進	市で推進している多文化共生のまちづくりについても、男女共同参画の推進の中で事業案として取り入れ、具体的成果を出すべく継続的に活動として取り組む項目として記載してほしい。
39	3-5-2 男女共同参画の推進	女性の活躍について、市議や市職員の女性の割合をについて計画目標を立てたり、民間で特に活躍している女性社長や役員・管理職などをフォーカスした情報発信をすべきではないか。
40	4-1-2 防災体制の充実	平成30年3月の策定に向けて検討中である、千葉県国土強靱化地域計画に記載された下記施策についても、第3次実施計画に反映させる必要がある。 1、重要施設への自立・分散型エネルギーの導入 2、災害時の石油燃料の確保 3、電力供給停止の情報通信機能の確保 4、災害情報の共有化 5、輸送手段(燃料)の多様化 6、自立・分散エネルギーの導入 7、インフラ設備の耐震化とライフライン事業者との連携 8、火災予防策の推進
41	4-2-3 良好な都市景観の形成	街路樹空間の適正化について検討していくにあたり、市民参加で考えていくプロセスを検討してほしい。 また、大径木や老木を撤去するのではなく、まずは長寿命化を探ってほしい。

No.	区分	意見の概要
42	4-2-3 良好な都市景観の形成	都市化に伴い、街路樹の整備や公園樹木の充実が、長きに渡りはかられてきたが、樹木が成長し、メリットだけでなく、デメリットも生まれる時代となった。緑をプラスに捉え歓迎する市民がいる一方、落ち葉や日照、景観などの理由で緑の環境をマイナスに捉える市民との意見の食い違いが、行政職員を悩ませる原因にもなっていると思う。 これからこの緑をどうしていくのか、行政、市民、有識者、民間事業者を交えた意見交換の場を設けたり、街路樹の長期、中期、短期の整備計画を策定するなど、緑の整備は官民一体となって、計画的に進めて行く必要がある。 先進的な自治体もあることから、研究しつつ、もっと積極的な事業が盛り込まれることを望む。
43	4-2-5 生活基盤の充実	道路施設の長寿命化について、計画的な更新に目を向けて取り組んでもらいたい。 歳出を抑えるために目先ばかりでは無く、未来に負の遺産を残さない取り組みをお願いしたい。
44	4-3-2 道路ネットワークの形成	第2次実施計画事業に計上されていた「市道幕張町215号線(花立踏切)の整備」について、本事業が継続しているものと住民へ発信する意味からも、第3次実施計画にも位置づけてもらいたい。
45	4-3-3 人にやさしい移動環境の創出	自転車を活用したまちづくりの推進の中で、「タンデム自転車乗車体験など…」とあるが、千葉県内で2輪のタンデム自転車が走行できる道路が未だないのが現状である。そのため、千葉県道路交通法施行細則を改正して、タンデム自転車が走行できる環境を整備すべきと考える。また、昭和の森や花見川等のサイクリングコースでも、タンデム自転車が走行できるよう改善してほしい。
46	4-3-3 人にやさしい移動環境の創出	鉄道駅バリアフリー化の推進について、京成電車のエレベーター未設置駅について、エレベーターの設置を検討してほしい。
47	5-1-1 3都心などの魅力向上	西銀座周辺の再開発について、西銀座周辺は歩行者が多い中、車の交通量も多く大変危険である。一部を歩行者専用道路とするなど、安全とにぎわいの創出を考えてほしい。
48	5-1-2 都市の国際性の向上	MICEの推進のMICEという言葉は、まだ一般市民には普及していないため、「国際会議・コンベンション推進(MICE)」とした方が良いのではないかと。 また、ダイバーシティも多様性(ダイバーシティ)とし、インバウンドも来日観光客(インバウンド)とすべきではないかと。
49	5-1-2 都市の国際性の向上	統合型リゾート(IR)導入可能性の検討について、可能性というのは一般的には実現させるための条件を見つけていくことかもしれないが、統合型リゾートに関しては、ギャンブルの負の面を真剣に考慮しないとイケない。誘致してしまえば、ギャンブル依存症の人が生まれてしまうが、それをあえて千葉市が税金を使って生じさせることが、市民の幸福のためになるのだろうか。大変疑問である。検討そのものをストップし、誘致しない決断をすることを求めたい。
50	5-1-3 観光の振興と魅力の創出・発信	インバウンド・観光は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も控えていることから、市が周辺都市を含め力を入れていくべき目玉事業である。 グリーンツーリズムは、市原市との連携もあるので、大多喜の温泉やチバニアンだけでなくもっと広く視点をとった、成田やTDL(浦安)との連携もあっても良いのではないかと。

No.	区分	意見の概要
51	5-1-3 観光の振興と魅力の 創出・発信	オリンピック・パラリンピックのボランティアや語学ボランティア、NPOなどのボランティアなどを含め、市内外には多くのボランティア候補がいる。インバウンドにおいても、市内外の若者、シニア、留学生、在住外国人など、様々なボランティアを統合したボランティアネットワークを創設すべき。 東京都では、都内のすべての高校で、おもてなし(語学)ボランティア研修を実施中している。千葉市においても県や他市とも連携し、3年後の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後のインバウンド、MICE含め、一般市民が当たり前のように街で外国人や障害のある方に声をかけられるような社会にしてほしい。
52	5-2-1 産業の振興	創業者向けの施設がなくなると新聞に書かれていたが、資金がない創業者にとってハード面の支援は重要。 創業環境の支援も行ってほしい。
53	5-2-1 産業の振興	中小企業・小規模事業者の課題解決支援について、事業承継は顕在化しにくい難しい問題である。どういった支援を行うのか気になる。
54	5-2-2 新事業の創出	スタートアップ支援の強化について、家事の合間にアウトソーシングで収入を得ることもできるので、このような内容があっても良いのかと思う。
55	5-2-4 物流・港湾機能の強 化	蘇我寒川緑地にある蘇我フェスティバルウォーク棧橋の入口付近に、乗船客の待合用の日よけシェルター(バス停の屋根と同様のもの)とベンチを設置してほしい。 蘇我寒川緑地とJFEの駐車場の教会にある樹林帯を、低木や数本のヤシの木に植え換えて見晴らしを良くしてほしい。 フィンセイルマリン社のアニバーサリークルーズ号(海賊船)の岸壁係留を継続してほしい。
56	5-2-5 産業人材の育成	産業人材の育成の項目で、技術系人材の育成を図るとあるが、所謂ブルーカラーという意味だと保護者の同意を得ることは難しいのではないかと。